

80才代への10年戦略

1. メルマガから学んだ事

右掲は、毎週、金曜日に配信して頂いているタナベ経営のメルマガにあった言葉です。「明るい自己否定」が心に響いたのです。私は、去年7月に70才になり、事業承継を2025年に行うと公言して準備を進めていますが、公言したら気分が緩んで少し保守的になってきた事に気が付いたのです。いわゆる、「ご隠居気分」が心に芽生えていろんな事に気の緩みが出始めているのです。このメルマガでは、佐久間氏のお客様の言葉として『ビジネスモデル革新をしなければならない企業は、今まで何もやってこなかったからだ』と書いている。うちの会社では、日々の小さな変化を非常に重視している。これを僕は『明るい自己否定』と呼んでいる。常に軽い気持ちで現状を否定して、新しい取り組みができるように、自己否定を悪いと思わない社風をつくっている』を紹介されて、『明るい自己否定の社風づくり』は、挑戦してみる価値が大いにあるのではないのでしょうかと結ばれています。

経営革新は「明るい自己否定」から
タナベ経営メルマガ '20年2月21日号から
(著者:コンサルタント 佐久間 昭光)

OODA(Observe:観察、Orient :情勢への適応、Decide 意思決定、Act:行動)ループによって刻々変化に対応策を決めてPDCA(Plan:計画、Do:実践、Check:点検、A:行動)サイクルを回して着実に対応して行くという意味において、『ビジネスモデル革新をしなければならない企業は、今まで何もやってこなかったからだ』という指摘は当然の話と言えますが、よくある場当たりの対応策では「方向性」が薄れるので社員の行動がバラバラになり集団としての効果が無くなるのです。「個々の最適は全体最適とは限らない」と言われるように、個々の方向性がブレないように「理念」に基づいた判断基準を浸透させておく必要があります。

その上で『明るい自己否定の社風づくり』が大切になるのです。「常に軽い気持ちで現状を否定して、新しい取り組みができるように」とありますが、「反省」する事は重要な事、その「反省」から新しい策を打ち出すことが重要なのです。往々にして、「前はこう言っていた」と批判する方がいるのですが、素直に自分の事として受容して「明るく前向き」という、そういう人が増える組織づくりが重要です。

2. 「明るい自己否定」

右掲は、平成8年4月から知人やお客様に月2回発信していた弊社のFax通信の第320号(発信:平成21年7月15日)です。「おまけの人生」と書いています。当メルマガも同じ時期の131号で同じように「おまけサロン『正喜庵』」と題して発信しています。母が「60を超えたら「おまけの人生」や」と教えてくれた事を書いています。

参照:<http://www.web-ami.com/siryu/131.pdf>

しかし、その後、三男将男が入社して一転して事業を継続する使命が重くのしかかったのです。右掲で分かるように社員は前澤さん一人で、ほそぼそと事業していた状況から「反転攻勢」の為に、例えば、大阪商工会議所や大阪府中小企業家同友会に入会して、平成24年7月に「経営革新」の承認を得て、自社商品を開発して武器にするようになったのです。また、個人的にも「健康寿命」の為に、新しい生活スタイルを確立して「百歳現役」を目指すようにして、体重を94kgから77kgに減量したのです。

ここで、この10年間を総括すると「10年間は連続黒字決算で資金的にも余裕が出た上に、少し売上が向上したが新規のお客様が増えた訳ではない」となります。事実なので「自己否定」でもなんでもないので、この中に含まれているのが「健康寿命」で体力的に維持は出来ているが少しずつ老化が出ているという点です。「寄る年波」と言えばそれまでですが、「否定」と捉えれば厳しい現実なのです。例えば、血圧関連から大動脈瘤が発見されて、現在、半年毎の経過観察中ですし、腎臓の数値であるクレアニン値が一時期改善したが、去年あたりから少しずつ悪化しているという現象も出ています。ある程度、「老化」でもあるので仕方ない面がありますが、内臓血流で腎臓を善くしてクレアニン値が改善する健康法もあるので、その取り組みが重要になっています。



3. フレイル:3つの対策

前項で健康面で老化と書きましたが、10才上の先輩方を見ても体力の衰えは抗えない事と受け止めて、出来る限り衰えを回避する事が、これからの10年で重要な視点であります。今、70才ですが、自分の未来戦略を再構築する必要があり「明るい自己否定」が重要になるのです。この10年間の「健康」への投資を洗い出して再チェックする事が重要です。つまり、「フレイル」(加齢により心身が古い衰えた状態)という言葉には、運動能力と疾患の両面から来る「生活の質的低下」により、自立できない状況へ向かう事を回避する事が含まれているのです。確かに、年金も少しではありますが十分に生活できる金額を頂いており、また、自営かつ経験が活きる経営コンサルタントの仕事もありますので、「金」と「時間」という点では、他の方より有利な環境であります。お陰様で2025年に事業承継すると決めています、お客様が望めば幾つになっても仕事は出来るのです。残るは、心身、つまり、「フレイル」による質の低下を如何にして遅らせるかが重要課題なのです。

右掲は、私が考える「フレイル」対策です。「運動」x「自炊」⇒「健康寿命」と考え実践して来ましたが、残るのは「精神」面なのです。同世代が次々と仕事や健康・死亡などで去って行く環境で、妻に先立たれているので「孤独」というリスクが大きいのです。「若さ」=「信念」x「実績」x「希望」というルール化していますが、「希望」が大きな課題です。確かに、70才になり生活が落ち着くと「希望」が薄れるのです。「わくわく」という事が重要なのですが、自身だけでは考え難い状況なので、若い世代と交流して若い人の「希望」を一緒になって支援すると考えて実践しています。この「希望」(わくわく)を持って、地域社会に「一隅を照らす」=「感謝」x「奉仕」x「お互い様」というルール化でお世話の機会を増やして充実した時間を作り出そうと考え実践を始めています。

「継続は力なり」と言いますが、日常活動に工夫して直線距離で約500mの自宅と事務所の往復を寺田町経由にして、基本的に朝昼晩の2往復で6kmのウォーキングを無理なく実践できています。残る課題の「精神」で「希望」(わくわく)を持続的に生み出すかが課題です。

3つの対策
1. 運動・日常ウォーキング
2. 健康・自炊
3. 精神・地域社会

4. 楽しくなければ人生ではない

お客様に「楽しくなければ仕事ではない、楽しくなければユニフォームでない」という会社があります。まさに「楽しい」がキーワードです。京都・亀岡のお寺で「曇り時々晴の人生」と教わったが、「晴」⇔「楽しい」を自助努力で創り出す事が重要です。若い時は、時代の進化について行くことで楽しかった面が大きかったが、70を超えると「進化」の恩恵から外れるようになります。私は、コンピュータの分野では「SNSデバインド」とならないように頑張っていますが、その他、例えば、クルマでは「いつ免許証を返納するか」などの話題が飛ぶようになってクルマへの関心が薄れているのが事実です。ウイルス騒ぎでクローズアップされたクルーズ船も一人では楽しくないと思います。ゴルフはメンバーではありますが、年会費免除なので、大動脈瘤で迷惑がかかるからという理由で行かなくなっています。

前項で「地域社会」と書きましたが、基本的に天台宗の「一隅を照らす」の精神で「感謝」x「奉仕」x「お互い様」ということで地域の老人会で役割を頂いて頑張っていますが、この会も年配者が健康を崩したり動けなくなったりで顔ぶれが変わって行きます。私自身は、元来、「人」と接するのは苦手なため、別な趣味が必要で「一人カラオケ」を楽しもうにしています。歌のDNAがあったのか、最近、民謡調の歌(津軽慕情、江差だより等)で高得点が出るようになって来ました。成果が伴うので余計「楽しい」ので、ほぼ毎日、「30分カラオケ」を楽しんでいます。この才能に共鳴する方々と楽しめたらと思います。

また、10年先の姿を描き、何をするかを決め、実行する事が大切です。私は、80代の10年は求められればコンサルタントの仕事の続けながら、若い世代の育成に貢献したいと思う事と、個人生活の充実の面で「一人カラオケ」で才能を磨いて行きたいと思います。例えば、「俵屋玄蕃」という曲は8年ほど前は80点ほどだったが、今は、90点に近づきつつあるように、「継続は力なり」の如く「才能」は引き出されるものと確信しています。10年後の「一人カラオケ」はどんな具合か楽しみにして、毎日、励みたいです。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】